

# 業界フラッシュ

\*本欄の記事は各社公式サイト等から抜粋

## ◇「暑さ指数ウォッチャー®」を建築現場に本格導入、労働環境以外にも対応 大林組／7月31日付け

大林組は、作業現場内の複数箇所で WBGT（暑さ指数）を連続測定し、その情報を一元管理することができるシステム「暑さ指数ウォッチャー」の本格運用を開始する。今年度、大林組が施工中の約 300 ヲ所の建築現場に導入するとともに、労働環境以外にも学校やスポーツ施設向けの各指針に対応する機能を付加し、外販を開始する予定。

「暑さ指数ウォッチャー」は、日本工業規格に基づき WBGT を高い精度で計測し、作業強度などの与条件に応じた WBGT 基準値を自動設定するなど、優れた性能を有している。

また、計測データをリアルタイムでクラウドシステムに送信するため、作業環境の情報をいつでもどこでも確認することができる。施工管理者のみならず、作業員や作業員を取りまとめる職長など一人ひとりが、作業環境を認識し、適切な熱中症対策を状況に応じて検討することで、熱中症の予防効果をより向上させ、熱中症災害の低減に一層の効果を発揮する。

## ◇当社 2 件目となる「自社水上太陽光発電所」の建設に着手 三井住友建設／8月1日付け

三井住友建設は、自社開発した水上太陽光発電用フロートシステム「PuKaTTo」を使用した太陽光発電所運営事業に着手した。これは、香川県木田郡三木町の農業用ため池を利用し、水上太陽光発電用フロート約 9400 枚を設置し、出力 2822kw の水上太陽光発電所を建設するもの。年間発電量は約 330 万 kwh を見込んでおり、固定価格買取制度を活用して全量を売電する

## ◇世界初「WELL 認証・プラチナ（新築 / 既存建物全体）」を取得 大成建設／8月2日付け

大成建設は、技術センター（横浜市戸塚区）の「ZEB 実証棟」において、米国・健康建築性能評価制度で最高ランクの「プラチナ」を取得した。

「WELL 認証」において、建物用途別に設定された 3 つの評価区分のうち、新築 / 既存建物全体での「プラチナ」は、7 分野・100 項目に渡る評価内容に対し、89 項目以上を満たす必要があることから取得が極めて困難なランクであり、今回の取得は世界初の事例となる。

昨今、働き方改革の推進にともない、健康経営を目指す企業が増加している。企業が働きやすく健康に配慮した職場環境を確保することは、健康経営における重要な課題であり、従業員の健康増進や生産性向上を促し、企業の活力強化につながる。また、このような企業の取り組みを支援するため、厚生労働省の「安全衛生優良企業公表制度」や経済産業省の「健康経営優良法人認定制度」など法制度上の仕組みも整備され始めている。

これらの社会ニーズに対し、当社は働く人の心身の健康増進を積極的に図り、生産性を高めることを目的とした空間づくりを推進しており、自社施設から導入を進めているが、その取り組みの一環として、技術センター ZEB 実証棟において、オフィス空間としての建築・設備面および運用・健康面の性能が評価され、この度の新築 / 既存建物全体での「WELL 認証・プラチナ」取得に至った。

## ◇「コンピューショナルデザイン」で設計品質を追求 清水建設／8月29日付け

清水建設は、企画・基本設計段階における設計提案の一層の高付加価値化を目的に、全社設計部門において高度なコンピューショナルデザイン手法を展開するためのプラットフォーム「Shimz DDE (Digital Design Enhancement platform)」を構築、このほど本格的に組織的運用を開始した。

設計者は Shimz DDE 上の様々なツールを活用することで、データ（エビデンス）に裏打ちされた付加価値の